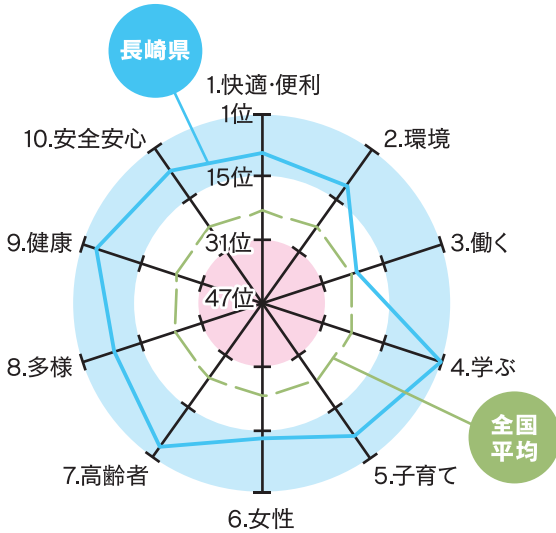


# 「Nなび」で長崎県のくらしやすさも情報発信します

県では、昨年7月にいろいろな統計データを使って、独自に「学びやすさ」や「子育てのしやすさ」、「働きやすさ」などの10の区分と100の個別指標からなる「長崎県の暮らしやすさ指標」をつくり、他県と比較してみました。

その結果、長崎県は総合得点で全国1位となりました。

## 10の区分それぞれの順位を示したチャート図



※全国順位は得点方式で、個別指標それぞれの順位に応じて、1位は47点、47位は1点としています。各区分の合計得点と、100の指標すべての総合得点で順位をつけています。

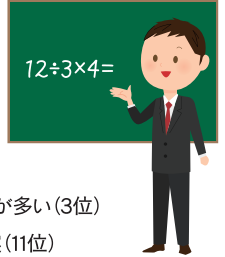
※統計データは平成27年6月時点のものを使用しています。

## 主な区分毎に内容を見てみると…

### 1位 学びやすいまち

～一人ひとりに目が届く教育体制～

- 教員一人あたりの児童生徒数が少なく、教員と児童生徒のふれあいが図りやすい(12位)
- 児童生徒一人あたりの学校のパソコン設置台数が多い(3位)
- 英会話サークルなど学校以外の学びの場が充実(11位)



### 2位 健康に暮らせるまち

～病気になるっても大丈夫。健康を支える人も施設も充実～

- 人口あたりの医師数が多い(8位)
- 人口あたりの診療所数が多い(3位)
- さまざまなスポーツが楽しめる運動場が充実(10位)



### 6位 子育てしやすいまち

～出生率の高さが物語る子育てのしやすさ～

- 出生率が高い(3位)
- 世帯あたりの延長保育を行う施設数が多い(3位)
- 人口あたりの認定こども園の認可・認定件数が多い(6位)



# 世帯の収入と支出を他県と比べてみると…

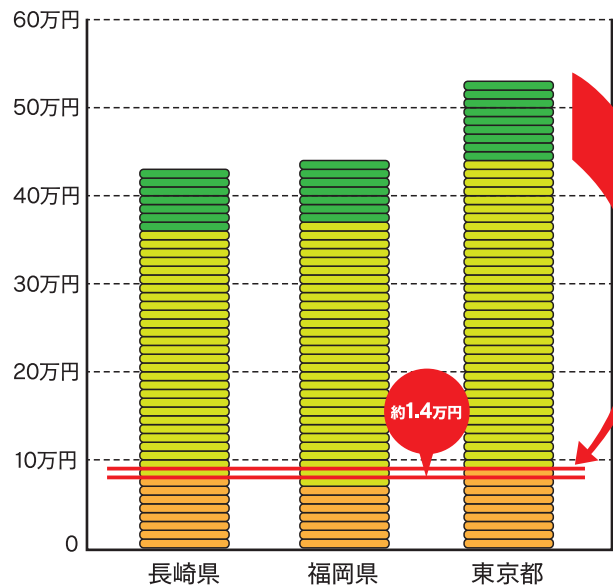
会社などに勤めている人がいる2人以上の世帯の1カ月の収入を比較すると、本県の収入は福岡県より約1.4万円、東京都より約10万円少ない状況です。しかし、都市部では住宅費などの生活費が高く、支出が多いため、収入から支出を差し引いた残金は、福岡県を若干上回ります。また、東京都とは約1.4万円の差となり、収支バランスを比較した場合、その差は大きく縮まっています。

長崎県では収入が低くても都会に負けない豊かな暮らしのでくつとばいね!



地元に残ると実家も頼りにできるし都会に比べて通勤時間も短くて時間的にもゆとりができるわね!

● 非消費支出 (税や社会保険など) ● 消費支出 (生活費) ● 残金



出典：平成26年全国消費実態調査